

共に生きる社会を

人はだれでも助け合って生きています。ダウン症のある人も、支援を受けるだけの存在ではありません。たがいに分け隔てなく、共に認め合えば、だれもがその人らしく、それぞれの力を十分に発揮することができるでしょう。私たちは、だれもが、共に、その人らしく、安心して暮らせる社会の実現を目指します。

(1) かけがえのない家族、仲間

生まれてくるすべての命に無駄な命、価値のない命はありません。ダウン症のある人それぞれが豊かな人生を生きています。家族や友達と、喜びや悲しみを共にしながら毎日を送っています。彼ら、彼女らの存在は、人と人をつなげ、家族や周りの人たちの人生も豊かにしてくれます。ダウン症のある人は、かけがえのない家族、仲間です。

(2) 差別や排除をしないで

人は皆それぞれ違いがあり、それを認め合い、補い合って生きています。一定の特徴があるからといって、その人たちを差別したり、排除したりする社会は、だれにとっても生きにくい社会です。

私たちは、だれもが安心して生まれ、尊重され、助け合える社会の実現を目指します。

(3) 意思を実現する支援を

ダウン症のある人は、支援が適切であれば、もっともっと社会に参加し、貢献することができます。

「適切な医療や教育を受けられること」「仕事をしてそれに見合った賃金をもらうこと」「自分が住みたい場所で一緒に暮らしたい人と暮らすこと」、これらは改正された障害者基本法で権利として認められています。

ダウン症のある人が仕事やボランティア、余暇活動など、やりたいことにチャレンジでき、意思を尊重されて行動できるよう、周囲の配慮が必要です。

学校や職場、作業所、施設、地域などで、ダウン症のある人をより理解し、その人の気持ちに添った働きかけがなされるよう望みます。

よりよい明日のために
みんなで一緒に前へ進んでいきましょう！

平成 25 年 3 月 20 日

平成 24 年度「世界ダウン症の日」記念イベント参加者一同